

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26350711

研究課題名(和文) ダンス必修化に対応する即興表現を通じたレジリアンス開発

研究課題名(英文) Development of Resilience through improvisation deal with Dance must be required

研究代表者

高橋 和子 (Takahashi, Kazuko)

横浜国立大学・教育学部・教授

研究者番号：10114000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：中学校ダンス必修化に対応する即興表現の典型教材を選定・web発信し、教材の有効性を検証した。その為に即興表現の知見に基づき策定した典型教材(内容・方法)を中学生、大学生、教員に体験させた結果、初心指導者においても、短時間の研修で指導法習得が可能であることが分かった。また、即興表現がレジリアンス(立ち直る生命力)に有効かについて、中学生3万人へのダンス実施状況やレジリアンス傾向を事前調査した。そのデータを参考に、大学生・教員に即興表現を体験してもらい、その前後比較をした結果、体験後は「運動・ダンス好き」「レジリアンス尺度(精神的健康・精神的回復力)」が肯定的に変容したことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Selected typical teaching materials of improvisation expression corresponding to the necessity of junior high school dance compulsion. We sent out the web and verified the effectiveness of the teaching materials. For that purpose, we let junior high school students, college students, faculty members experience typical teaching materials (content / method) formulated based on knowledge of improvisational expressions. In addition, even for beginner leaders, we found that it is possible to acquire teaching methods through short training. In addition, we investigated the status of dance implementation and resilience trends for 30 thousand junior high school students as to whether improvisation expression is effective for resilience (life force to recover). As a result, it became clear that after "Improvisation Experience", "Exercise / Dance Favorite", "Resilience Scale (Mental Health & middot; Mental Resilience)" was positively transformed.

研究分野：舞踊教育学

キーワード：ダンス必修化 即興表現 典型教材 レジリアンス 初心ダンス指導者 教授法 モデル映像 web発信

1. 研究開始当初の背景

2012年から中学校1・2学年の男女ダンス必修化が完全実施された。本研究者は中学校学習指導要領解説保健体育編作成協力者(2010・2018年度)として関わったが、必修化は明治以来の画期的な出来事である。しかし、ダンスは必修化したものの、ダンスの実施率は低く、学習内容である「創作系・リズム系・フォークダンス系」の3領域間の実施率においても、リズム系の実施率が高い傾向にある。しかもリズム系は戦前の教育法であった「振り写し」の指導法が多いこと。ダンス指導が苦手な教員が多いこと。指導内容・方法への理解が不足していること。運動会や体育祭での発表でよしとする風潮があること。単元で組んでの授業実践が少ないこと等、いくつかの課題が報告されている(高橋2013)。

これらの研究背景を踏まえると、ダンスの「初心指導者」及び「男女必修」に対応するための、ダンスの基本である「即興表現」の効果的な指導法研究が喫緊の課題になる。即興表現の指導の秘訣は、受容的雰囲気の中かで心身を開放し、あるがままの動きを称賛し、個性的で生命力溢れる動きを引き出すことにある。また、そこで用いられる学びの様式は、教師の基本を押さえた課題提示と、教師の一方的な教え込みの方法ではなく教師と生徒や生徒同士の双方向の学び合いが重要になる。これは、世代を担うグローバル人材育成の方法とも合致している。また、場の空気を読み臨機応変かつ即興的に行動する経験は、個々人の生命に潜在する「レジリアンス(困難から立ち直る力:東日本大震災以降注目された言葉)」を開発できると言われている(高橋2013)。

2. 研究の目的

そこで、研究の背景に掲げた課題を解決するために、次の事項を研究目的に据えた。

- 1) 本研究者の先行研究で明らかにした即興表現に関する知見を整理するとともに諸外国の研究結果とも照らし合わせること。
- 2) それらの知見に基づき、男女必修ダンス授業を中心に、効果的な即興表現の典型教材を特定すること。典型教材を小中高校の教員や教員養成系の大学生や中学生に導入し、創作系やリズム系ダンス指導における有効性を明らかにすること。
- 3) 初心指導者がダンス授業において最低限身に付けるべき、即興表現の技能や知識や教授技術の精選を行うこと。
- 4) 即興表現と振り写し指導との比較を通して、即興表現が「レジリアンス」に与える影響を明らかにすること。
- 5) 以上を踏まえ、即興表現のモデル教材、つまり、各教材と指導法スタイルを関連付けてパッケージ化を行うとともに、それらの教材をweb発信すること。

3. 研究の方法: 概要と詳細を記述する。

【概要】 即興表現の典型教材の選定にあたっては、本研究者の先行研究と諸外国の研究結果に基づき、「ダンス必修化に対応する即興表現」に効果的な典型教材(内容と方法)を特定した。それらを、中学生、学生(日本の教員養成系・中国の即興表現未経験学生)教員が体験し、その妥当性を明らかにした。さらに、即興表現の体験前後にレジリアンス尺度による評価測定を行い、即興表現のレジリアンスに与える影響を明らかにした。さらに、教材をweb発信し、情報提供に努めた。

【研究方法の詳細】

- 1) 即興表現に関する文献研究や聞き取りにより、下記に示す各指導者の「ねらい・内容・方法」を調査した。さらに、数人の指導者のワークショップを受講するとともに、作成した典型教材映像の視聴をして頂き、教材の妥当性を検証した。
イエンツ・ヨハンセン(独)は多様なボディワークを体験し、即興表現やダンスに出会い、身心の繋がりを探求。
Bonnie Bainbridge Cohen(米)はBody-Mind Centeringの創始者であるとともに、ダンスの即興表現に造詣が深い。
ローザ・ロベス(ベネズエラ:リベルタドル実験教育大学教授)は国際女子体育連盟会長でリズムダンス指導に卓越。
タンシンベン(英:プリマス大学客員教授)は「感覚と感受性」を核にした身体教育研究者。
ブリギッテ・ホイジンガー(独:マール大学)はダンス教育専門家養成の方法(創作ダンス・テクニク、即興、音楽等)に卓越。
岩下徹氏は国際的な舞踏グループ山海塾の舞踏手でありソロ活動としてコミュニケーションとしての即興ダンスの可能性を追求。
EXILEのTETUYAはNHKのEテレで数年リズムダンスの教材を提供。
ウォルフガング・シュタンゲ(独)はダンスのインクルーシブ教育の世界的権威。
- 2) 熟練指導者による特徴的な教授法(師範型:村田芳子筑波大学教授、言葉での誘導型:本研究、課題提示型:近藤良平氏=コンドルズ主宰者、複合型指導の岡本和隆港区立御成門中学校教諭、EXILEのTETUYAを選定し、どの教授法が最適かを検討するとともに、モデル映像を制作した。
- 3) 「初心ダンス指導者のダンス技能と知識」に関する調査を行うため、体育教員200名に対し即興表現体験後(表現系・リズム系)学習指導要領解説に掲載されているダンス用語14個による知識テストを実施した。
- 4) レジリアンスの基礎資料を得るため、全国の中学生役3万人にレジリアンス尺度の調査を行った。また、被災地であった神戸市は全市を挙げて創作ダンスを指導していることから、他地域との比較を行うことにより、創作ダンスの影響を探った。

- 5) 教員養成系学生 360 名と体育教員 200 名に対し即興表現を主としたダンスを、本研究者が指導し、その効果を、心身の健康指標としてレジリアンス尺度（精神的健康尺度・精神的回復力尺度）を用い解析を行うと共に、質的研究としてダンス教材「新聞紙」の自由記述分析を実施した。
- 6) 選定されたダンス教材 DVD を全国の指導主事（各県・政令指定都市）50 名に配布し、教材の有効性について調査した。
- 7) 即興表現の典型教材を、未経験の横浜市公立中学生 3 クラス 90 名と、中国の北京林業大学や上海海洋大学のダンス専攻生 60 名に実施し、レジリアンス尺度調査や自由記述の分析から有効性を検証した。

4. 研究成果

1) 即興表現の典型教材選定と教授技術

については、次のことが明らかになった。

全国の中学生と教員に対するダンス実施状況調査から、リズム系ダンスは約 8 割、表現系は約 6 割、フォークダンスは約 5 割の中学生在履修していた。リズム系では振付・発表が多く、リズムに乗り自由に踊るのは 5 割弱であった。表現系では簡単な作品創作・発表が多く、即興表現は約 3 割、外国のフォークダンスが約 4 割の実施率であった。つまり、学習指導要領（解説）等で提示している「基本的な内容」はあまり教えられていないが、この「基本的な内容」は教員自身の経験や指導経験があるほど、指導していることが分かった。

即興表現に卓越した指導者による実習を受講するとともに、彼らへの聞き取り調査から、指導者は「内的感覚の重視・身体感覚と感受性の重視・笑顔で自由に踊る大切さ」を重視していることが分かった。

即興表現の最適な教授法を選定するため、熟練指導者による特徴的な教授法「師範型、言葉での誘導型、課題提示型、複合型」に基づく実践を行った。その結果、「学年・単元・男女共修等」様々な条件に応じた教授法を行うべきであり、一つの教授法が最適という結果は得られなかった。ただ、「威圧的・管理的・一方向的な振り出し」の教授法は評価を得られなかった。

即興表現と振り移し指導との比較を通し、即興表現がグローバル人材育成に欠かせないレジリアンスに与える影響を明らかにするため、中学生 3 万人と教員 200 名への質問紙調査の結果、自由な即興表現のほうが、指導者やビデオの動きの「振り移し」指導法よりも、レジリアンスに有効であることが分かった。

特に、神戸市は全市を挙げて創作ダンスに取り組み、57 年間にわたり成果発表会を開催している成果として、教員のダンス指導が可能になっていること。生徒自身がダンスで身に付いた力として、神戸市では「表現力」「創造

力」「コミュニケーション力」を挙げているのに対し、リズム系の履修が多い全国では「身体感覚」を挙げている傾向にあった。

初心者のダンス指導者が即興表現の技能を習得後、自らが授業実践を行って見たところ、明確な課題提示を行えば、ある程度の指導が可能であることが分かった。さらに、「初心者ダンス指導者のダンス技術と知識」に関する調査結果より、指導要領解説に出ている語句について、体験を伴いながら知識と技能の習得を図れば、それらの定着度が高いことが分かった。また、男性教員よりも女性教員のほうが知識の理解度が高い傾向にあった。

リズム系熟練指導者である EXILE の TETUYA 氏が、カウントでの振り出し法ではなく、基本的な人間の動き（歩く・走る・スキップ等）による指導法を実施した結果、自由に学生は踊る経験ができ、楽しんで行ったことが感想等から、わかった。

2) 即興表現のレジリアンスへの有効性

については、次のことが明らかになった。

レジリアンスの基礎資料を得るため、全国の中学生 18,622 名にレジリアンス調査を実施した結果、「疲れ・怒り・悲しい」の 3 因子が抽出され、「疲れやすさ」「体がだるい」と答えた中学生が半数近くいた。そのレジリアンス尺度を使って、下記に示す対象者にダンスの前後に調査を行った。

教員養成系学生や教員に対して、即興表現を行った結果、「運動好き・ダンス好き・精神的健康・精神的回復力」が肯定的に変容した。

精神的健康尺度は、「憂鬱」「集中力欠如」「短気」「身体的症状」の 4 因子構造であり、精神的回復力尺度は、「挑戦的」「情緒不安定」「感情コントロール」の 3 因子構造であり、各因子間に相関があった。

精神的健康尺度と精神的回復力尺度の各々の因子間においても、6 つの因子間に相関が認められた。

公立中学校男性教諭による複合型指導において、「第 2 回全国中学校リズムダンスふれあいコンクール」で文部科学大臣賞を受賞し「ダンスで生徒たちは成長できた」との調査結果により、レジリアンスの有効性が明らかになった。

大学生がダンス教材「新聞紙」で獲得した概念は、レジリアンスで大事にした要素と類似していた。

即興表現未経験指導者が横浜市の公立中学生に対し、初心者ダンス指導者が実践した結果、レジリアンスの向上を確認することができた。

即興表現未経験の中国の大学生においても、即興表現体験前後のレジリアンス尺度調査と自由記述の分析からレジリアンスの向上を確認することができた。

3) 即興表現の作成した教材映像の有効性

については、次のことが明らかになった。精選された典型教材を再構成した映像（指導のコツをテロップで加筆）を web 発信するとともに、全国（各県・政令指定都市）の指導主事にはダンス映像DVDを配布した。さらに、ダンス即興表現に造詣が深い Bonnie Bainbridge Cohen 氏やインクルーシブ教育の世界的権威であるウォルフガング・シュタンゲ氏に直接映像を視聴して頂いた。その結果、指導内容・方法とも高い評価を得たことから、映像の妥当性も確認できた。特に、多忙化する教師にとって、web 視聴は、「いつでも、誰（生徒への視聴も含め）でも、どこでもできること」が好評であるとの調査結果を得た。

以上のことから、ダンスの即興表現は心身のレジリエンスを高める効果が明らかになるとともに、中学校ダンスの基本的内容である即興表現の重要性が指摘できた。

5. 主な発表論文等（研究代表者には下線）

【雑誌論文】（計41件）

<2014（平成26）年>

- 高橋和子. 横浜スポーツふれあえ場の成果, 平成25年度文科省委託事業報告書
高橋和子. 男女必修ダンスのモデル教授法開発: 初心指導者に焦点化して, 科研報告書, 全8頁
高橋和子・松本千代榮. 94年の舞踊人生, 女子体育, No.56-4, 6-11
高橋和子. 日本女子体育連盟60年の歩み ダンスの力は無限なり, 女子体育, No.56-8, 4-6
高橋和子. ダンスの力をすべての人へ, 日本女子体育連盟創立60周年記念紀要, 4-7, 全122頁
高橋和子. ダンスの力は無限なり, 女子体育, No.56-10, 4-5
高橋和子. 男女必修ダンスのモデル教授法開発: 初心指導者用モデルパッケージ, 舞踊教育学研究, No.16, 51-52, 日本教育大学協会保健体育・保健研究部門舞踊研究会
高橋和子. 学校教育におけるダンスの歴史的变化と教育的価値, 舞踊学, Vol.36, 122-123

<2015（平成27）年>

- 高橋和子. 中学校における柔道・ダンスの指導状況等の調査, 平成26年度文科科学省委託事業報告書, 1-69
高橋和子. ダンスはどんな扉を開くのか, 女子体育, No.57-4, 4-5
高橋和子. ダンス指導実践はアクティブ・ラーニング, 女子体育, No.57-8, 4-6
高橋和子. ダンスは共感を生み出す装置, 女子体育, No.57-10, 4-5
高橋和子. 「ダンスの力をすべての人へ」がもたらした宝物, 女子体育, No.57-12, 4-5

- 高橋和子. ダンスの力, それは「生きる力(レジリエンス)」, 女子体育, No.57-12, 12-13
高橋和子. 表現・創作ダンス 小・中学校での指導と評価, 女子体育, No.57-12, 60-61
橋本晴子・高橋和子. ダンスの創作活動における生徒の葉がけに関する一考察, 舞踊教育学研究, No.17, 61-62
高橋和子. 中学校におけるダンス授業の実態とその影響, 舞踊教育学研究, No.17, 63-64
高橋和子. 授業という臨床の場に生きる: 子どもの学びを支える為に, 藤沢教育文化センター, 教育実践臨床研究, 129-133
高橋和子. 伊藤史織. ダンスの基本的内容を実技を通して考える, 体育科教育学, ラウンドテーブル報告, 5-6
高橋和子. ダンス初心教員のための教材研究 体育科教育学研究, Vol.31-1, 75

<2016（平成28）年>

- ① 高橋和子. ダンス領域を実践する上での成果と課題の把握並びにその解決策の為の方策, 平成27年度文科科学省委託事業報告書, 88頁
② 高橋和子・山本光. レジリエンスを高めるダンスの有効性に関する研究: 大学生および教員を対象として, (公社)日本女子体育連盟学術研究, Vol.32, 1-16, **査読有**
③ 有松育子・高橋和子. 生涯学習社会の実現のために, 女子体育, Vol.58-4, 6-11
④ ボニー・ペインブリッジ・コーヘン・吉田美和子・高橋和子. 内側から捉える身体とダンス教育: ソマティクスの視点からみる即興性, 女子体育, Vol.58-6, 6-11
⑤ 高橋和子. アクティブ・ラーニングとダンス学習, 女子体育, Vol.58-8, 20-25
⑥ 高橋和子. ダンスのある風景, 女子体育, Vol.58-10, 46-49
⑦ 高橋和子. ダンスは誰とでも繋がれるツール, 女子体育, Vol.58-10, 4-5
⑧ 高橋和子. 日々のダンス・身体活動を振り返る視点: 数値・楽しさ・レジリエンス・ふれあい, 女子体育, Vol.58-12, 46-49
⑨ 高橋和子. 生の延長上にある死をからだ気づきの実践から考える, Mind-Body Science No27, 人体科学会
⑩ 高橋和子. 改定期のダンスでいま, 何が, どう問題か, 体育科教育, Vol.64-3, 16-19
⑪ 高橋和子. ダンスを問うてみる, 体育哲学研究 Vol.46, 15-16
⑫ 高橋和子. 中学校におけるダンス指導実態調査. 神戸市の場合, 舞踊教育学研究, No.18, 18-19

<2017（平成29）年>

- ⑬ 高橋和子. ダンス必修化に対応する即興表現を通じたレジリエンス開発, 平成26~28年度科学研究費補助金基盤研究(C)報告書, 全8頁
⑭ 高橋和子. ダンス領域の指導実践上の課題解決のための方策. 平成28年度スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業報告書, 全72頁

- ③⑤高橋和子. コンピテンシー・ベイスの授業づくり: コンテキストをどうつくるか, 学習観の転換をもたらした体育の授業づくり, 指導と評価, Vol. 63-7, 52-54
- ③⑥高橋和子. 教員のダンス研修における成果と課題, 舞踊教育学研究, 日本教育大学協会保健体育・保健研究部門舞踊研究会, Vol. 19, 47-48
- ③⑦高橋和子. ダンスはだれもが主役・みんなが主役, 女子体育, Vol. 59-4, 4-5
- ③⑧高橋和子. ダンスがひらく学びの世界: 学習指導要領改訂が目指すもの, 女子体育, Vol. 59-8, 4-5
- ③⑨高橋和子. 継続は歴史と伝統を創る, 女子体育, Vol. 59-10, 4-5

<2018(平成30)年>

- ④⑩高橋和子・木村昌彦. 「柔道・ダンスの指導状況調査と課題解決の為の指導のあり方」調査, 平成29年度スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業報告書, 全80頁
- ④⑪高橋和子・山本光. レジリエンスを高める「からだ気づき」の有効性に関する研究: 看護専門職の「主体的対話的で深い学び」を通して, (公社)日本女子体育連盟学術研究, No. 34, 17-30 **査読有**

〔学会発表〕(計20件)

- 高橋和子. 学校教育におけるダンスの歴史の変遷と教育的価値(招待講演), 舞踊学会, 愛知芸術文化センター, 2014
- 高橋和子. ダンス初心教員のための教材研究, 日本体育科教育学会第19回大会(仙台大学)2014
- 高橋和子. ダンス必修化に対応した即興表現の典型教材に関する一考察, 第65回日本体育学会(岩手大学)2014
- 高橋和子. ダンス必修化の着地点を探る(招待講演), 千葉県小中学校体育連盟, さんぶの森文化ホール, 2015
- 高橋和子. 生の延長上にある死をからだ気づきの実践から考える-ダンスはレジリエンスをよびさます(招待講演), 人体科学学会第25回大会, 中央大学多摩キャンパス, 2015
- 高橋和子. 中学校ダンス授業の実態とその影響: 高校ダンス部員への意識調査を通して, 第34回全国創作舞踊研究発表会, 筑波大学, 2015
- 高橋和子. ダンスの基本的内容を実技を通して考える, 日本体育科教育学会第20回大会, 横浜国立大学, 2015
- 高橋和子. 舞踏家大野一雄のダンス教育, 関東学院大学 横浜学(招待講演)2015
- 高橋和子. ダンスの影響を中・高・大・教員のレジリエンス尺度からみる, 第65回日本体育学会, 2015
- 高橋和子. 中学校におけるダンス指導実態調査: 神戸市の場合, 日本教育大学協会第35回全国創作舞踊研究発表会, 静岡県コンベンションアーツセンター, 2015
- 高橋和子. 学習指導要領改訂の動向, 東京学芸

- 大学プロジェクト(招待講演)2016
- 高橋和子. ダンス必修化に対応する即興表現の影響をレジリエンス尺度からみる, 第66回日本体育学会, 2016
- 高橋和子. 教員のダンス研修における成果と課題, 第36回全国創作舞踊研究発表会, 岐阜大会, 2016
- 高橋和子. ダンス教育: 指導要領の理念と実際(招待講演), (公財)日本舞踊協会山口県支部第6回定期支部会員総会, 2017
- Takahashi Kazuko. Achievement of Japanese dance learning that has been driven active learning, 17th International Association of Physical Education and Sport for Girls and Women, USA, Florida 国際会議, 2017
- 高橋和子. 思考力、判断力、表現力等の育成を重視した体育科・保健体育科の指導, 平成29年度 全国都道府県・指定都市教育委員会学校体育担当指導主事研究協議会, スポーツ庁(招待講演), 2017
- 高橋和子. 子どもとかわるということ: 教育の原点を確かめる, 藤沢教育文化センター研修会, 2017
- 高橋和子. ダンス即興表現の有効性を中国大学生の事例を通して探る, 第68回日本体育学会, 2017
- 高橋和子. 舞踊教育の未来に向けて: 学習指導要領変遷の視点から(招待講演), 第37回全国創作舞踊研究発表会, 宇都宮大会, 2017
- 高橋和子. 舞踊研究会の歩み(記念講演), 第37回全国創作舞踊研究発表会, 2017

〔図書〕(計6件)

- 村田芳子・高橋和子他16名, 学校体育実技指導資料第9集, 表現運動系及びダンス指導の手引き, 文部科学省, 東洋出版社, 全243頁, 2017
- 細江文利編著, 高橋和子他15名, 動きの感じと気づきを大切に作る表現運動の内容, 教育出版, 19-25, 全頁180, 2014
- Airman・高橋和子 松田恵二他3名, ダンスの実践の課題, 振付稼業 airman の踊る教科書, 東京書籍, 80-85, 全頁95, 2014
- Matteo Casari, Elena Cervellati 編著
Kazuko Takahashi 他10名, 大野一雄のダンス教育に関する一考察,
Butō. Prospettive europee e sguardi dal Giappone. "Arti della Performance: orizzonti e culture" "Danza e ricerca. Laboratorio di studi, scritture, visioni", published by the Department of Arts of the University of Bologna, Web出版, 2015
- 佐藤豊編, 高橋和子他20名, 中学校新学習指導要領の展開 保健体育科ダンス, 明治図書, 全189頁, 138-139, 2017
- 小澤治夫・小林寛道・高橋和子他, スポーツの科学と教育, ベースボールマガジン社, 全239頁, 66-71, 2018

〔映像〕(計5件)

文部科学省. 高橋和子(作成協力), リズム系ダンス指導のための映像参考資料, 2014

高橋和子. 中学校における柔道・ダンスの指導状況等の調査, 平成 26 年度文部科学省委託事業, 教材映像(<http://kazuko-ynu.jp>)

高橋和子. ダンス領域を实践する上での成果と課題の把握並びにその解決策の為の方策, 平成 27 年度文部科学省委託事業, 教材映像(<http://kazuko-ynu.jp>)

高橋和子. ダンス領域の指導実践上の課題解決のための方策. 平成 28 年度スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業教材映像(<http://kazuko-ynu.jp>)

高橋和子・木村昌彦. 「柔道・ダンスの指導状況調査と課題解決の為の指導のあり方」調査, 平成 29 年度スポーツ庁武道等指導充実・資質向上支援事業教材(<http://kazuko-ynu.jp>)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕 ホームページ等

・高橋和子公式サイト <http://kazuko-ynu.jp>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者 高橋和子
(TAKAHASHI, Kazuko)

横浜国立大学・教育学部・教授

研究者番号: 10114000